

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-056810

(43)Date of publication of application : 04.03.1997

(51)Int.Cl.

A61M 1/00

(21)Application number : 07-219045

(71)Applicant : KOIKE MEDICAL:KK  
GUNMA KOIKE:KK

(22)Date of filing : 28.08.1995

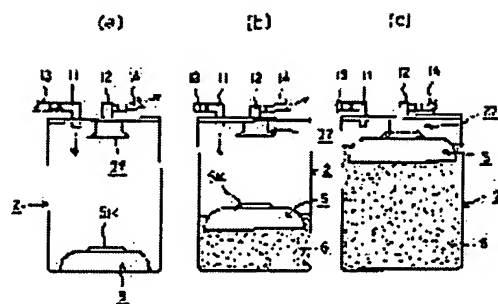
(72)Inventor : HAYAKAWA EITARO  
ISHIKAWA SHIRO  
TAKAHASHI MASAO  
MURATA NOBUO  
SUZUKI MASASHI  
TAKIMOTO ISAO

## (54) TREATING DEVICE OF LIQUID WASTE

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To prevent the excessive suction of liquid waste without freshly installing mechanisms by arranging a float of a prescribed sp. gr. or below for holding water absorbent materials into a holding vessel opened downward into the bottom of a treating unit, thereby facilitating visibility and making gelatinization fast.

**SOLUTION:** The float 5 is positioned in the bottom of the treating unit 2 before the start of the suction. The liquid waste 6 arrives at the lower side of the float 5 by passing the space between the collecting bag of the treating unit 2 and the holding vessel of the float 5 when the suction of the liquid waste 6 into collecting bag is started. Then, the sp.gr. of the float 5 is  $\leq 1$  and, therefore, the water-soluble film on the rear surface of the float 5 dissolves while floating at the air-liquid boundary, thereby gelatinizing the liquid waste. The float 5 exists at the air-liquid boundary at all times when the suction of the liquid waste is progressed thereby efficiently diffusing the waste



absorbent materials into the liquid waste 6 sucked afterward and gelatinizing the waste. The float 5 rises to the top end and closes the liquid passage for discharge.

---

## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 01.09.1999

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3007285

[Date of registration] 26.11.1999

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-56810

(43) 公開日 平成9年(1997)3月4日

(51) Int. Cl. <sup>4</sup>	識別記号	片内整理番号	P I	技術表示箇所
A 61 M 1/00	510		A 61 M 1/00	510

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平7-219045

(22) 出願日 平成7年(1995)8月28日

(71) 出願人 591027008

株式会社小池メディカル  
東京都江戸川区松島1丁目24番8号

(71) 出願人 595099860

株式会社群馬コイケ  
群馬県伊勢崎市長沼町222番地1

(72) 発明者 早川 栄太郎

東京都江戸川区松島1丁目24番8号 株式  
会社小池メディカル内

(72) 発明者 石川 四郎

群馬県伊勢崎市長沼町222番地1 株式会  
社群馬コイケ内

(74) 代理人 弁理士 中川 岡吉 (外1名)

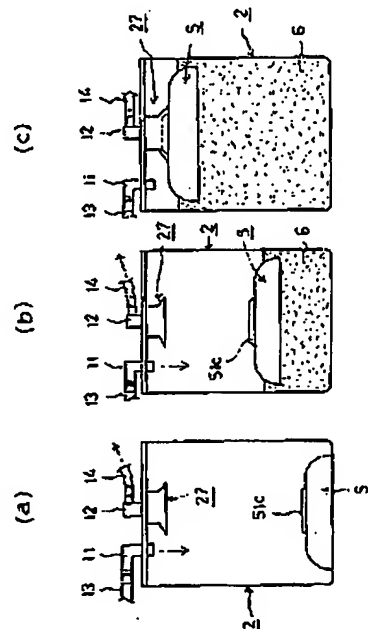
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 液状廃棄物の処理装置

(57) 【要約】

【課題】 液状廃棄物を吸引して凝固処理し廃棄する処理装置において、衛生面及び運搬などの取り扱い面においてより早くゲル化させることが望ましい。また、処理装置の容量以上に吸引してしまった場合、処理装置に負圧をかけているエアポンプが故障してしまったり、液状廃棄物に含まれる細菌が漏れてしまうため、過剰吸引を防止する手段をより確実なものにすることが望まれる。

【解決手段】 本発明に係る液状廃棄物の処理装置は、下方に向かって開口した保持容器内に吸水性材料を保持した比重1以下のフロートを、処理ユニット底部に配置する。また、処理ユニットの蓋に設けられた排気口とフロートの上面に結合構造を設け、フロートが処理ユニット天端まで浮上した際に、前記結合構造によってフロート上面が排気口を閉鎖することを特徴とする。



(2)

特開平9-56810

1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 吸引した液状廃棄物を溜める処理ユニットと、該処理ユニットを内側に着脱自在に保持する容器からなる液状廃棄物の処理装置であり、

前記処理ユニットは、液状廃棄物を収納する収集袋と、前記容器の開口部へ密着可能であって空気を外へ排出する排気口と前記液状廃棄物を吸い込む吸引口とを備えた蓋とを有し、前記蓋を前記収集袋の開口部に一体に取り付けてなり、

下方に向かって開口した保持容器内に吸水性材料を保持してなる比重1以下のフロートを前記処理ユニット底部に配置することを特徴とする液状廃棄物の処理装置。

【請求項2】 前記蓋に設けられた排気口と前記フロートの上面に結合構造を設け、前記フロートが前記処理ユニット天端まで浮上した際に、前記結合構造によって前記フロート上面が前記排気口を閉鎖することを特徴とした請求項1記載の液状廃棄物の処理装置。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、液状廃棄物、例えば医療現場に於いて廃棄する必要がある血液やその他の体液、または患部の洗浄に使用した生理食塩水などの廃棄物を吸引して、凝固処理し廃棄する処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】医療現場に於いて、特に外科手術を行う際に生じる廃棄する必要がある血液や生理食塩水などの廃棄物は、吸引機で容器に集められて廃棄焼却処分される。しかし、かかる廃棄物には有害な細菌などが含まれている場合があり、容器や袋が破損したり、液状廃棄物を収集袋の容量以上に過剰に吸引してしまった場合、廃棄物が外部に漏れ、医療従事者、入院患者等に二次感染する場合がある。また過剰に吸引して液体がエアポンプまで流れ込んでしまった場合には、エアポンプの故障を招くこともある。

【0003】この事故を防止するため、通常吸引した液状の廃棄物を収集袋内に配置した吸水性高分子ポリマーを使用して凝固させてから廃棄したり、一定量以上の吸引を行わないような装置を設けたりしている。

【0004】収集袋内に液状廃棄物を凝固させる吸水性材料を配置する方法として、非透水性のシートと吸水性シートを貼り合わせ、吸水性シートが内面側になるように収集袋を形成するものや、収集袋内に液状廃棄物を吸引した後に用意しておいた吸水性材料を投下するもの、また収集袋底部に吸水性材料を固着させておくものなどがある。

【0005】また、液状廃棄物を過剰に吸引することを防止する装置としては、通常排気口にロッドを有する浮きを準備して、水位の上昇と共にロッドが排気口を塞ぐよう構成したものが多い。

2

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、非透水性のシートと吸水性のシートを貼り合わせて構成した処理装置は、多重構造をなしているため内部が不可視となり、また折り畳みにくく、収納および運搬に不便があった。また収集袋内に液状廃棄物を吸引した後に投下する吸水性材料を用意した処理装置においては、当然吸水性材料を投下するまで凝固が起こらないため、作業途中で乾固させた場合に不安が残る、また一度凝固させた後に追加して吸引を行うことができなかった。また、収集袋底部に吸水性材料を固着させた処理装置においては、液状廃棄物の吸引が進行するにつれて凝固速度が低下するという問題があった。

【0007】そこで、本発明の目的は、容器と収集袋が別体な液状廃棄物の処理装置において、内容量の視認が容易であり、より早くゲル化し、かつ新たに機構を設けることなく液状廃棄物の過剰吸引を防止する液状廃棄物の処理装置を提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明に係る液状廃棄物の処理装置は、吸引した液状廃棄物を溜める処理ユニットと、該処理ユニットを内側に着脱自在に保持する容器からなる液状廃棄物の処理装置であり、前記処理ユニットは、液状廃棄物を収納する収集袋と、前記容器の開口部へ密着可能であって空気を外へ排出する排気口と前記液状廃棄物を吸い込む吸引口とを備えた蓋とを有し、前記蓋を前記収集袋の開口部に一体に取り付けてなり、下方に向かって開口した保持容器内に吸水性材料を保持した比重1以下のフロートを前記処理ユニット底部に配置することを特徴とする。

【0009】また、前記液状廃棄物の処理装置は、前記蓋に設けられた排気口と前記フロートの上面に結合構造を設け、前記フロートが前記処理ユニット天端まで浮上した際に、前記結合構造によって前記フロート上面が前記排気口を閉鎖することを特徴とする

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態に於ける第一の実施例について図により詳細に説明する。本実施の形態は医療用の液体廃棄物の処理装置であって、手術、治療中に発生する廃棄すべき血液や洗浄用の生理食塩水を処理ユニット内に吸引し、これを処理ユニットごと凝固処分するものである。図1は本実施の形態に係る液状廃棄物の処理装置の分解斜視図、図2は液状廃棄物の処理装置の外観側面図、図3は液状廃棄物の処理装置の部分断面図、図4はフロートの構成図、図5は処理ユニットの畳んだ状態を示す斜視図、図6は処理装置を使用した際の動作を説明する図、図7は処理ユニットの使用後の廃棄方法を示す斜視図である。

【0011】図1に示すように、処理装置1は液体廃棄物を溜める処理ユニット2と、処理ユニット2を収容す

50

(3)

特開平9-56810

3

る容器であるボトル3と、ボトル3の外側に装着され、処理装置1を保持するホルダ4とから構成される。

【0012】また、図2、図3に示すように、処理ユニット2をボトル3内に挿入した際、蓋22はボトル3の開口部周縁に接触し、また、収集袋21の底板23はボトル3の内底に接触する。そして、ホルダ4の固定フック44を用いて処理ユニット2の蓋22をボトル3に固定することにより処理ユニット2、ボトル3、ホルダ4を一体に固定すると共に、ボトル3を蓋22によって密封する。

【0013】ボトル3は、円筒形の透明なプラスチック容器であって、表面には容量を示す目盛り31がきつてある。また、ボトル3上部の開口部上端に前記処理ユニット2の蓋22がはめ込まれ、ホルダ4の固定フック44により気密に固定される構造となっている。

【0014】ホルダ4は、ボトル3の上部にはめ込んで固定する環状体41に、取っ手42及び処理装置1を壁やラックなどに固定するブラケット43をプラスチックにより一体に成形したものである。また、環状体41には処理ユニット2をボトル3に固定する固定フック44を有している。

【0015】処理ユニット2は低密度ポリエチレン製の収集袋21の開口部に円形のプラスチック製の蓋22を熱溶着して一体化したものである。また、収集袋21の底部には、プラスチック製もしくは紙製の底板23が取り付けられている。底板23の外形はボトル3の内底と一致するように構成されている。処理ユニット2内の底板23上にはフロート5が設置されている。

【0016】蓋22は収集袋21内から空気を排出する排気口24と、収集袋21内へ液体廃棄物を吸い込む吸引孔25とを有する。排気口24および吸引孔25にはそれぞれJ字型の継手11,12をガスケットを用いて気密に且つ着脱可能に取り付けており、それぞれの継手11,12には患者に先端をあてて液体廃棄物を吸い取るベシエントホース13、およびエアポンプに接続される一次側ホース14を取り付けている。また、蓋22には、液体廃棄物6がたまった処理ユニット2をボトルから簡単に取り出すために、取っ手26が取り付けられている。

【0017】排気口の継手12の内部の気体の通路は二つに分かれており、処理ユニット2の内部から気体を吸引する第一連通路24aと、処理ユニット2とボトル3の隙間から気体を吸引する第二連通路24bからなっている。すなわちこの構造より、処理ユニット2内から気体を吸引すると同時に、処理ユニット2とボトル3の隙間からも吸引することになるため、ボトル3内において処理ユニット2の内外の気圧が等しくなり、処理ユニット2の収集袋21を可塑性のシートによって構成しても収縮することなく吸引を行うことができる。

【0018】排気口24の収集袋21内の端部27には、ろうと状に下向きに広がった連結部28が形成されている。該連結部28の内側にはストップバルブフィルター29が接

4

されている。連結部28は、後述するフロート5の連結ガイド51cと一対に形成されて排気口の端部27とフロート5を結合させる結合構造を構成し、フロート5が上昇して処理ユニット2の天端まで浮上した際に、連結部28と連結ガイド51cは排気の吸引力をもって密着し、液状廃棄物6の吸引を停止させる。

【0019】ストップバルブフィルター29は高分子を焼結した多孔質体であり、成型時に成形材料の中に吸水ポリマー及び抗菌剤を配合し、発泡成形を行ったものである。このストップバルブフィルター29は、多孔質体であることから、通常はフィルターとして気体を通過させ、抗菌剤により排気に含まれる細菌を抑制する。一方、ストップバルブフィルター29に液状廃棄物6が接触すると包含された吸水ポリマーが吸水膨張し、多孔質体の孔を塞いで液状廃棄物の通過を妨げる。これにより、もし処理装置を転倒させた場合にも液状廃棄物6が漏れる心配がない。

【0020】処理ユニット2の底部23上にはフロート5が設置されている。フロート5はその比重大き1以下になるよう構成され、処理ユニット2内に液状廃棄物6が流入した際には常に浮上して気液界面に位置する。

【0021】フロート5の保持容器51はポリプロピレンによって形成され、図4に示すように、カップをふせた形状をしており、下方が開放されている。フロート5の外径は収集袋21の内径よりも小さく形成されており、この隙間を通過して、吸引された液状廃棄物がフロート5の下側へ回り込むことができるよう構成されている。また、フロート5の上面には連結ガイド51cが設けられており、排気口の連結部28と一対に形成され、当接することによって排気口を閉鎖するよう構成されている。

【0022】保持容器51の内面の縁部には段部51aが形成され、該段部51aには突起51bが設けられている。フロート5の保持容器51の内部には、段部51aまで吸水性材料52を充填し、段部51aを水溶性フィルム53で覆うことによって吸水性材料52を固定し、さらに前記段部51aにフィルム固定リング54を嵌合することによって水溶性フィルム53を固定している。なお、フィルム固定リング54の外周には全周に渡って切れ込みが設けてあり、この切れ込みに保持容器の突起51bがはまることにより嵌合されている。

【0023】次に、図5、図6および図7を用いて当該液状廃棄物の処理装置1の使用手順および動作を説明する。図5に示すように、処理ユニット2は、使用前は蓋22と底板23とを合わせるように収集袋21の袋部分を折り畳まれており、ビニールの包装容器に密封するなどして保存、輸送される。この時、取っ手26は蓋22の両側へ倒すことができ、さらに各ホースへの継手12,13も取り外すことができるために極めてコンパクトになり、場所をとらずに保存、輸送することができる。

【0024】また、使用に際しては、底板23を蓋22から

(4)

特開平9-56810

5

離し、収集袋21を伸ばしてボトル3へ挿入することにより簡単に処理装置1に装着できる。この時、底板23が所定の重さをもつように構成すれば、底板23の重さにより収集袋21が破なく伸ばすことができる。

【0025】図6(a)に示すように、吸引を開始する前はフロート5は処理ユニット2の底部に位置している。液状廃棄物6を収集袋21内に吸引を開始すると、液状廃棄物6は処理ユニット2の収集袋21とフロート5の保持容器51との間の隙間を通過してフロート5の下側に送ずる。

【0026】すると図6(b)に示すように、フロート5は比重が1以下であることにより気液界面に浮かびながら、フロート5の下面の水溶性フィルム53が溶解して吸水性材料が拡散し、液状廃棄物をゲル化する。また、液状廃棄物6の吸引が進行した場合にもフロート5は常に気液界面に存在し、後から吸引された液状廃棄物6に効果的に吸水性材料を拡散させゲル化させることができる。また、フロート5が常に気液界面にあることから、吸引された液状廃棄物の量を容易に視認することができる。レベルゲージとしての機能も果たすことができる。このためフロート5の保持容器51を赤や蛍光色などの目立つ色の材料で成形すればより好適である。

【0027】図6(c)に示すように、吸引作業が進行すると、フロート5が処理ユニットの天端まで上昇して、フロート5上部の連結ガイド51cと、排気口の連結部28が当接する。すると、排気の吸引力によって連結部28、連結ガイド51cが密着し、排気の流路が閉鎖されて、処理ユニット2内に負圧がかからなくなる。従って液状廃棄物6の吸引が停止し、過剰に吸引してエアポンプを故障させる恐れがない。

【0028】図7に示すように、使用後、処理ユニット2をボトル3から取り外す際には、排気口24、吸引口25にはそれぞれキャップ15、16をかぶせて処理ユニット2を密閉した上で、ホルダ4の固定フック44の固定を解除し、蓋22の取手25を用いて引き上げれば簡単に分離、廃棄することができる。使用後の処理ユニット2は、そのまま焼却処分する。このとき、液体廃棄物6が凝固した状態では、底板23の傷きにより処理ユニット2を単体で立てて取り扱うことができる。

【0029】図8を用いて本発明にかかる液状廃棄物の処理装置の第2の実施例を示す。実施例1と説明が重複する部分については、同一の番号を付してその説明を省略する。

【0030】本実施例において吸引口73の処理ユニット2内部の端部は処理ユニット2の収集袋21の壁面に向かって屈折しており、吸引した液状廃棄物6を壁面に沿って流すことにより液面の乱れを抑える構成となっている。

【0031】また、排気口の処理ユニット2内部の端部27は円筒に形成され、この端部27の外周にはゴム製の吸

6

盤72が接合されている。端部27と吸盤72は、端部27の外周の縁部に全周に渡って設けられなくとも、吸盤72の上部円筒内面に全周に渡って設けられた突起部分を嵌合させることによって接合されている。また実施例1と同様に、端部27の内側にはストップバルブフィルター29が接合され、液状廃棄物6の容器外への流出を確実に防止する構造となっている。

【0032】またフロート7の保持容器71は上面を蓋いだ円筒形をしており、下面は開放されている。実施例1に於けるフロート5においては上面に連結ガイド51cとして隆起部分を設けたが、本実施例に於けるフロート7の上面はただ平面に形成されている。

【0033】液状廃棄物6を吸引すると、フロート7は気液界面に浮かびながら吸水性材料52を拡散させて液状廃棄物6をゲル化させる。そしてフロート7が処理ユニット2の天端に到達すると、排気口の端部27の吸盤72がフロート7の上面に排気の吸引力を以て吸着し、排気の流路を閉鎖する。液状廃棄物をフロート7下方へ通過させる必要から、前述したようにフロート7と処理ユニット2の間には隙間が形成されており、フロート7は水平方向に移動するが、吸盤72はフロート7上面のいずれの部分にも吸着し得るので、排気口を確実に閉鎖することができる。

【0034】上記実施の形態に於いて、保持容器はポリプロピレンによって形成したが、比重が1以下となりさえすればその材質を限定しない。また、保持容器の形状をカップをふせた形としたが、本発明はこれに限定するものではなく、上面を有する円筒や多角形の筒、またリング状の浮きの中央部分にアームによって吸水性材料を保持するものなど、すなわち下方が開かれたものであればよい。また、保持容器内部に空気がたまらないうような空気抜き穴や切れ込みなどを有するのでも好ましい。

【0035】また、保持容器内に吸水性材料を保持するために水溶性のフィルムを用いたが、吸水性材料の保持手段は他にも、例えば水によって溶解する充填材によって吸水性材料を固着したり、水によって分解する不織紙または不織布によって保持したりするなど様々な手段が考えられる。

【0036】上記実施の形態において排気口の連結部28に設けたストップバルブフィルターは、本発明に係るフロートと共に用いなければならないものではなく、単独で従来の液状廃棄物の処理装置に設けることによって、過剰吸引や乾固による液状廃棄物の漏れを防止することができる。また、ストップバルブフィルターを処理ユニット内部に設けたが、処理ユニットの外部や、エアポンプに接続される一次側ホースの途中に設けてもよい。

【0037】またストップバルブフィルターは高分子を焼結して発泡成形したが、他の形成方法としては、バルブやポリプロピレン、ポリエチレン等を混合させた糊等で吸水ポリマーを包んで加熱圧縮し固めたものでもよ

(5)

特開平9-56810

7

い、その際、綿を構成する繊維が飛散しないように、空気の流通経路に対してフィルター表面をナイロンメッシュ等で底葎するのが好ましい。

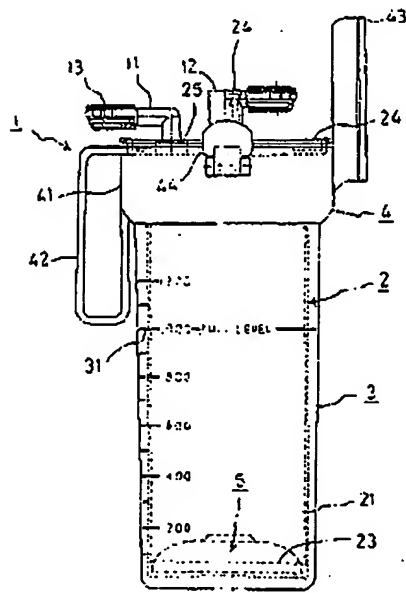
【0038】

【発明の効果】本発明にかかる液状廃棄物の処理装置は、吸水性材料を保持したフロートを比容1以下に構成したことにより、処理ユニット内に液状廃棄物を吸引した際に、フロートが急に気液界面に位置することになる。これにより、急に新たに吸引された液状廃棄物に対して吸水性材料を拡散させることができ、ゲル化を早く効果的に行うことができる。また、一度吸引を休止した後に再度吸引を行った際にも、迅速にゲル化を進行させることができる。また、内容量を示すレベルゲージとしての機能も持たせることができる。また、構造が簡単なため製造コストが安価である。

【0039】また、フロートの上面と排気口に結合構造を設け、フロートが処理ユニット天端に至った際にフロート上面が排気口を閉鎖するよう構成したことにより、過剰に吸引を進行させることなく排気の吸引を停止させることができ、エアポンプ側に液状廃棄物が漏れることがない。従ってエアポンプの故障を防ぎ、また液状廃棄物に含まれた細菌を漏らしてしまうことも防ぐことができる。

\*

【図2】



8

\*【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の形態に係る液状廃棄物の処理装置の分解斜視図である。

【図2】液状廃棄物の処理装置の外観側面図である。

【図3】液状廃棄物の処理装置の部分断面図である。

【図4】フロートの構成図である。

【図5】処理ユニットの畳んだ状態を示す斜視図である。

【図6】処理装置を使用した際の動作を説明する図である。

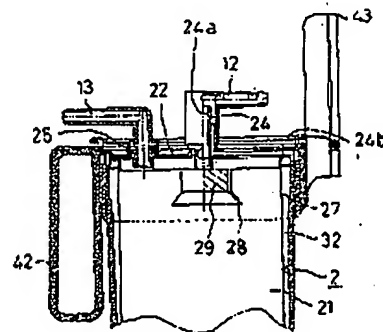
【図7】処理ユニットの使用後の廃棄方法を示す斜視図である。

【図8】本発明の実施例2に係るフロートを説明する図である。

【符号の説明】

1…処理装置、2…処理ユニット、3…ボトル、4…ホルダ、5…フロート、6…液状廃棄物、7…フロート、21…収集袋、22…蓋、23…底板、24…排気口、25…吸引口、27…排気口端部、28…連結部、29…ストップバルブ、51…保持容器、51c…連結ガイド、52…吸水性材料、53…水溶性フィルム、54…フィルム固定リング、71…保持容器、72…吸盤、73…吸引口

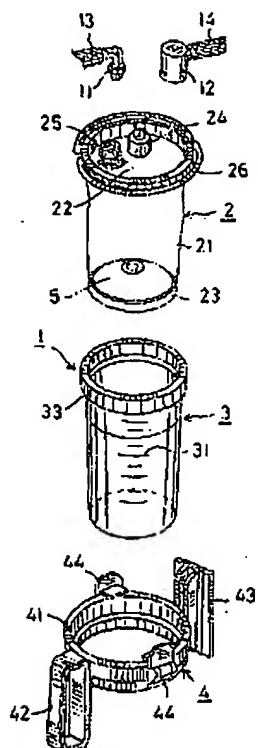
【図3】



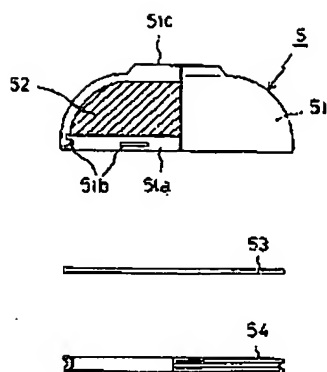
(6)

特開平9-56810

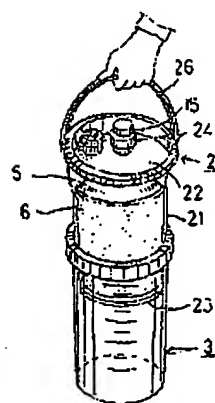
【図1】



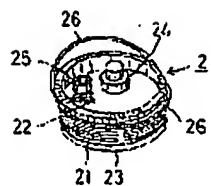
【図4】



【図7】



【図5】

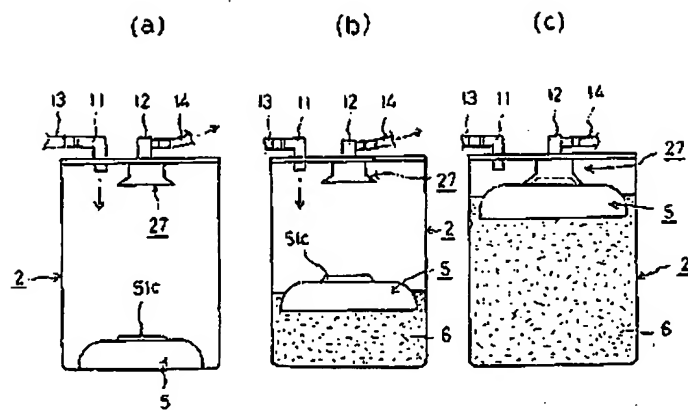




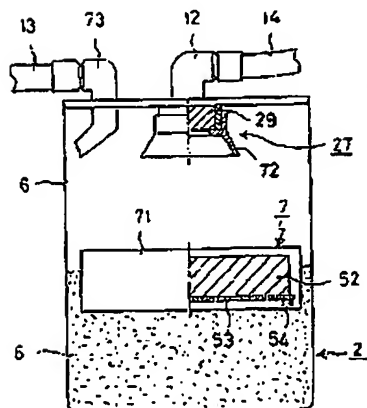
(7)

特開平9-56810

【図6】



【図8】



フロントページの続き

(72)発明者 高橋正男  
群馬県伊勢崎市長沼町222番地1 株式会社  
群馬コイケ内  
(72)発明者 村田伸雄  
東京都江東区比砂1丁目19番16号709

(72)発明者 鈴木雅規  
長野県上田市中央2丁目2番15号2C  
(72)発明者 渡本功  
大阪府大阪市東住吉区東田辺2丁目15番4号

特開平9-56810

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第1部門第2区分  
 【発行日】平成12年12月12日(2000.12.12)

【公開番号】特開平9-56810  
 【公開日】平成9年3月4日(1997.3.4)  
 【年号号数】公開特許公報9-569  
 【出願番号】特開平7-219045  
 【国際特許分類第7版】

A51M 1/00 510

【FI】

A51M 1/00 510

【手続補正書】

【提出日】平成11年9月1日(1999.9.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】吸引した液状廃棄物を溜める処理ユニットと、該処理ユニットを内側に着脱自在に保持する容器からなる液状廃棄物の処理装置であり、前記処理ユニットは、液状廃棄物を収納する収集袋と、前記容器の開口部へ密着可能であって空気を外へ排出する排気口と前記液状廃棄物を吸い込む吸引口とを備えた蓋とを有し、

下方に向かって開口した保持容器内に吸水性材料を保持してなる比重1以下のフロートを前記処理ユニット底部に配置することを特徴とする液状廃棄物の処理装置。

【請求項2】前記蓋に設けられた排気口と前記フロートの上面に結合構造を設け、前記フロートが前記処理ユニット天端まで浮上した際に、前記結合構造によって前記フロート上面が前記排気口を閉鎖することを特徴とした

請求項1記載の液状廃棄物の処理装置。

【請求項3】前記フロートは、該フロートの保持容器の開口を水溶性フィルムで覆ったことを特徴とする請求項1記載の液状廃棄物の処理装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正内容】

【0008】

【課題を解決するための手段】本発明に係る液状廃棄物の処理装置は、吸引した液状廃棄物を溜める処理ユニットと、該処理ユニットを内側に着脱自在に保持する容器からなる液状廃棄物の処理装置であり、前記処理ユニットは、液状廃棄物を収納する収集袋と、前記容器の開口部へ密着可能であって空気を外へ排出する排気口と前記液状廃棄物を吸い込む吸引口とを備えた蓋とを有し、下方に向かって開口した保持容器内に吸水性材料を保持した比重1以下のフロートを前記処理ユニット底部に配置することを特徴とする。